雨の中のバックオーライ

　その日は、早朝から小雨が降っていて、何だか気持ちが乗らない一日のスタートだった。

　自分の中に、いつもと違う自分がいるようで、仕事をしていても何だか憂鬱（ゆううつ）だった。普段なら聞き流す一言に引っ掛かり、心が落ち着かなかった。

　仕事が終わっての帰り道。まだ雨は降り続いていた。私はイライラしながら車を自宅へ向けて走らせていた。

　あと少しで自宅という細い路地を通っていたとき、向こうからタクシーがこちらに向かって走ってきているのが見えた。

　いつもなら、手前のちょっと広くなっているところで止まって、道をゆずるのだが、今日に限ってそのまま直進をした。

　案の定、タクシーもそのまま直進をしてきたため、離合できないところで鉢合せとなってしまった。

「なんてついていない１日だろう。」

と思い、それでもそのままでいると、タクシーの運転手が雨の中、傘も差さずに車から降りてきた。

「文句でも言いに来るのか。」

そう思い身構えていたところ、

タクシーの運転手は、私の車の後ろへまわり、

「私が後ろを見ますから、気を付けてバックしてください。」

と言い、そのまま雨の中、

「オーライ、オーライ。」

と大きな声で私の車を誘導してくれた。

　そして、誘導が終わると、タクシーまで走って戻り、すれ違いざまにクラクションを鳴らして通り過ぎていった。

　あっという間の出来事だった。

　ふと我に返った私は、ジワーッと温かいものが込み上げてきているのに気付いた。